

平成 27 年度八王子市青少年問題協議会

第 1 回検討会 会議録

名称： 平成 27 年度八王子市青少年問題協議会第 1 回検討会

日時： 平成 27 年 7 月 24 日（金）午前 10 時～12 時

場所： 八王子市役所本庁舎 7 階 701 会議室

次第

- 1 挨拶
- 2 委員紹介
- 3 第 154 回八王子市青少年問題協議会の協議・報告
- 4 平成 27 年度重点目標「みんなでつないでいこう 思いやりの心」の取組状況について
- 5 八王子市青少年健全育成基本方針 平成 28 年度 重点目標の考案にあたって
 - (1) 青少年を取り巻く問題
 - (2) 平成 28 年度重点目標の方向性（案）
- 6 情報提供
 - (1) 薬物乱用防止パンフレットについて
 - (2) 最近の青少年の非行情勢について
 - (3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の実施について
 - (4) 「ビジョン すくすく☆はちおうじ」の青少年健全育成に関する施策について
 - (5) その他

【出席】

八王子市青少年対策地区委員会連絡会代表	関口 眞吾	委員
八王子地区保護司会代表	大竹 通夫	委員
都立高等学校校長会代表	平野 篤士	委員
八王子市内私立中学高等学校校長代表	原田 泰宏	委員
八王子市立中学校長会代表	清水 和彦	委員
八王子市立中学校PTA連合会代表	加地 弘子	委員
八王子警察署生活安全課少年第一係	篠原 健志	委員
高尾警察署生活安全課少年第一係	村上 享史	委員
南大沢警察署生活安全課少年第一係	西 政彦	委員
八王子市教育委員会事務局学校教育部 統括指導主事	佐藤 晴美	委員
八王子市子ども家庭部子どものしあわせ課長	平塚 裕之	委員
八王子市子ども家庭部 子ども家庭支援センター館長	福田 秀之	委員
八王子市健康部生活衛生課長	山野井 寛之	委員
八王子市生活安全部防犯課長	宮木 高一	委員
八王子市子ども家庭部児童青少年課長	佐藤 晴久	委員 座長

出席 15 名

(事務局) 子ども家庭部児童青少年課

中山、松日樂、若林

【配布資料】

- (1) 平成 27 年度八王子市青少年問題協議会第 1 回検討会 次第及び資料
- (2) 薬物乱用防止パンフレット
- (3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の実施について
- (4) こころの東京革命 会報第 43 号 (参考)

【閲覧資料】

- (1) 第 3 次八王子市子ども育成計画「ビジョン すくすく☆はちおうじ」
- (2) 第 3 次八王子市子ども育成計画「ビジョン すくすく☆はちおうじ」(概要版)

【議事要点】

1. 挨拶

児童青少年課長から挨拶

2. 委員紹介

事務局から、委員の名前・所属団体を紹介

3. 第154回八王子市青少年問題協議会の協議・報告

資料2～3頁に基づき第154回八王子市青少年問題協議会での協議等について要点を事務局から報告

→委員からの意見等なし

4. 平成27年度重点目標「みんなでつないでいこう 思いやりの心」の取組状況について

資料4～7頁に基づき事務局から説明

【関口委員】

連絡会等で協力を呼びかけ青少年対策地区委員会の回答率をあげるようにしていきたい。

【福田委員】

7頁の上巻分方学童保育所の「あいさつ散歩」という事業で「散歩の移動中や公園遊びの最中に会える地域の方に自ら積極的にあいさつをする。」というところが少し気になった。この時代に知らない人に声をかけていいのか判断が難しい点もある。例えば、学校に来る人は関係者であるから児童・生徒があいさつをしても心配はないと思う。考えすぎかもしれないが、少し気になる場所である。

【関口委員】

おそらくですが、私の家の裏をこの子たちがよく歩いている。個人の活動というよりも学童保育所の活動の一環ではないかと思う。子どもたち単独の活動であると確かに心配もあるが、学童保育所としての活動であれば良いのではないかと思う。

→その他、委員から特に意見等なし。

検討会として内容について了承。

5. 八王子市青少年健全育成基本方針 平成28年度重点目標の考案にあたって (1) 青少年を取り巻く問題

資料8頁に基づき事務局から説明

【佐藤晴美委員】

インターネット・携帯・スマホ等による問題はいろいろあります。大きな事件などにはならなかったとしても、ちょっと書き込んだことによって相手は傷ついて、そこから問題が大きくなっていくことはやはりある。いじめのみに関わらず子どもがコミュニケーション、人間関係をどう作っていくかということは、大きな課題であると考えます。こうした機械に頼って人とコミュニケーションをはかろうとすることや、また、不登校の子どもにおいてもどうしても人と上手く接することができなくて人間関係を築けないという問題が根底に見え隠れしていると感じる

【事務局】

学校に入る前の経験にも何か関係があるのか。

【佐藤晴美委員】

小さいころの体験ということもあるだろうし、学校に入ってから同じ年齢層の子と関係が築けない子どももいる。その子が持つ特性という部分も気になる場所だと思いますが、学力だけではなくて、自分の気持ちを言葉を介して言うことが苦手であることが多い。少し何か言われるとカッとなり手が出てしまうというところもある。

【関口委員】

10 頁に「自転車運転者講習制度」とありますが、私たちの学区は広いため、自転車で通学している。中学生が事故に遭ったが、ヘルメットをかぶっていて助かったことがあった。小学生はヘルメットをかぶっていない。小学生向けの指導など何かやっという動きはあるのか。

【事務局】

交通安全教室を行い、運転免許証のようなものを渡すなどしている。

【佐藤晴美委員】

中学生はスタントマンを使って講習を行っている。

→その他、委員から特に意見等なし。

検討会として内容について了承。

(2) 平成 28 年度重点目標の方向性 (案)

資料 13～17 頁に基づき事務局から説明

【佐藤晴美委員】

家族が一番小さい社会と言える。子どもたちが初めて人と関係を作る場所が家庭である。そこでどれだけ言葉のキャッチボールができるか。自分の言葉を聞いてくれる家族がいることは大切だと考える。

【清水委員】

家庭に大人がいない。両親も祖父母もいないという事情の中で子どもを育てる家庭が増えているという現実の中で難しさを感じる。こうした家庭では子どもを褒めるタイミングがない。

褒めることは、なかなか難しい。例えば、意図的にお手伝いなどをさせないと褒められない。こうした時に褒められて「頼りになっているのだ」と自己存在感が子どもの中に生まれる。褒める場合にはそれが具体的にどういうことで親がうれしいのか、親の感情が込められていないと褒めたことにならない。そのため何かをしながらの「ながら」状態は存在しない。褒めるときは子どもと正対して伝えるべきである。家事をしながら「ありがとう」と言われて嬉しい子はいますか。この「ながら」というのは違うのではないかと考える。私たちは「ながらはやめてください」と保護者に伝えている。

また、17頁について子どもの「意欲」「好奇心」は子どもに本来備わっているものであり、大事なことでそのとおりだと思う。その力は意図的・計画的に刺激をして育てないといけない。刺激のタイミングを失うとなかなか上手く身につかない。

それから、「知恵」というのも難しい。基本的なものがあって、ある課題のために今までの経験を踏まえて自分で考えて乗り越えたり、大人の力を借りたりしないといけない。これが「知恵」になる。そのため、時には「知恵」が追いつかないアンバランスさという部分がもう少し書かれていると良い。

【関口委員】

資料の青少年を取り巻く問題を見ても多くが「思いやりの心」が大切で、そこにリンクして対応できるのではないかと思う。ネット・いじめを取り上げて来年度の重点目標に結び付けていこうということで、3つの指針は良いが「思いやりの心」にどこがどうつながっていくのか。テーマに「思いやりの心」があるならばそのリンクがわかりやすく読んだ人が腑に落ちるような形で指針があった方がもっと素直に読める。その点をもう少し工夫していただけるといい。いじめにおいて、相手を思いやる心や気づきを大人が子どもにどう伝えていくか。そのためには、自己肯定感を育てていこうということにつながるのだと思う。せっかく「思いやりの心」がキーワードにあるのだから、リーフレットを読んだ人が腑に落ちるようなつながりがあると形になると思う。

いじめ対策となると子どもが相手に対して「思いやり」を持つことが必要になると思うが、第一には大人・保護者に対して呼びかけていくものである。そこに視点をおいて啓蒙していることが伝わるよう、もう少しわかりやすくしてもらえると良い。個々に関しては良くまとめて分析してあって良いのですが、全体的に見て気付いた点である。

【大竹委員】

良くできていると思う。「すくすく☆はちおうじ」にも家庭のことがいろいろ書いてあるが、ここにリンクすることもたくさんあるので良い。

【加地委員】

家庭の中だけで取り組むことが難しいという方もたくさんいる。そうした家庭の子どもに対し、青少対などを含めて様々な地域活動の中でほめてあげるなど、いろいろな言葉か

けができれば良いかなと感じる。

食事に関しては、一緒にお母さんとご飯を食べていないという話などをよく聞く。そうした子どもに対しては、学校での給食などで子どもたちと食事を楽しむ時間を作ってあげることが一番大切なのではないかと感じている。

【原田委員】

28年度は、より具体的な目標となっていると思うので取り組んでいきやすいのではないと思う。ネットが問題になるならば、ネットを利用して啓蒙活動・教育活動をするのはどうか。保護者の方もネットやメールで配信されれば目を通される方も結構いるのではないと思う。防犯メールも子どもたちにもわかるように配信されていて、非常に良い手段である。こうしたものを利用して重点目標の達成をしていただけたらと思う。

ところで、現在の防犯メールの登録件数はどのくらいなのか。

【宮木委員】

約2万4千人です。

【原田委員】

毎年保護者も変わるので、年度の始めに学校に登録の案内をいただけたらより理解も深まると思う。

【平野委員】

3つの項目の1番と3番は普遍的なもので、私が子どものころから必要なことであるし、30年、40年後もやはりそれぞれ大切なことである。2番については、この20年間急に問題となってきている。少年犯罪は減少傾向になっていると思いますが、ネットに関するところは水面下のものも含めて学校にとって非常に頭の痛い問題である。このように2番目に方針として示されてそのことで市内の小中学校にはより良い教育ができることになると感じる。

【宮木委員】

2番目についてタイトルが子どもへの呼びかけのような感じになっている。基本的には、保護者や地域の大人に向けたリーフレットなので、少し違和感を感じる。

→その他、委員から特に意見等なし。

検討会として内容について了承。

よって、指摘箇所を踏まえた事務局案を次回提案することとした。

6. 情報提供

(1) 薬物乱用防止パンフレットについて

健康部生活衛生課長 山野井委員から資料に基づき説明

資料補足

- ・ 1年前に中学生向けの薬物乱用防止パンフレットを作成し、夏休み前に配布した。八王子独自の取組として、いろいろと取り上げていただき、今回その第2弾として薬剤師会の全面協力で高校生から大学生など若者を対象年齢としたパンフレットを作成した。
- ・ 薬物の怖さを伝えるために薬物乱用者の告白や八王子ダルク施設長のメッセージを載せている。
- ・ 市内の都立・私立高校へ全生徒分16,000部を配布し、大学生に対しては大学コンソーシアムの活用等を検討している。

(2) 最近の青少年の非行情勢について

南大沢警察署生活安全課第一係長 西委員から口頭説明

【西委員】

平成27年1月～6月までにおける八王子市内の補導状況について報告します。補導件数は341件であり、平成26年は662件でしたので、マイナス321件と減少傾向にある。補導の内訳としては深夜徘徊が241件とほぼ割合を占めている。続きまして喫煙が62件、その他としては飲酒、家出、ゲームセンターの時間外の立ち入りなどが何件かあるという状況である。

少年犯罪の検挙状況については一番多いのは窃盗で51件、窃盗の内訳は万引き、自転車盗などがある。続いて多いものは占有離脱物横領でほとんどが自転車の横領であるが、21件。その他の犯罪としては傷害6件、暴行が3件、強盗が1件、特別法として、軽犯罪法違反が5件、迷惑防止条例違反が3件、銃刀法違反が1件となっている。

少年達に対する犯罪として、南大沢警察署の管内のことになりますが、7月に小学生たちに対して公然わいせつがあった。事件の内容は、15日に長沼と日野市の境で30歳位の男が小学3年生の女の子に対するものであり、16日には東中野、20日は松木で40歳位の男が、22日は上柚木の小学4年生の女の子に対するものである。被疑者はいずれも同じ人ではなく、状況を聞く限りでは違う人と思われる。暖かくなり、こうした人が出始めているので、パトロールを強化するなどして警察は対応している。被害に遭った子どもたちには夏休みも防犯ブザーを持って、走って逃げてすぐ大人に知らせるようという事は伝えられている。大人の方はそうした情報を聞いたら、すぐ110番するようにはしていただければ、被疑者の検挙につながると思うので、ご協力をお願いしたい。

夏休みに入り、今後家出や深夜徘徊等が増えてくると思うので、警察の方でも声かけ等を増やしていき、対応していきたいと思っている。

(3) 「夏休み子どもを取り巻く事故・犯罪ゼロ作戦」の実施について

生活安全部防犯課長 宮木委員から資料に基づき説明

(4)「ビジョン すくすく☆はちおうじ」の青少年健全育成に関する施策について

子ども家庭部防犯課長 平塚委員から資料に基づき説明

(5) その他

【清水委員】

地域の会合に行った時に「ピーポーくんの家子ども 110 番」の指定箇所について学校は把握しているのか、また誰が管轄しているのか、空き家に看板がついたままであるが、安全なのかと聞かれた。ピーポーくんの家を確認し切れるかという学校では難しい。「ビジョン すくすく☆はちおうじ」には警察署と教育委員会と PTA 連合会で実施していると書いてある。入れ替え等のタイミングはどこがやっているのか教えてほしい。

【福田委員】

私は何年前、東浅川小学校で PTA 会長をしていた。その時は、PTA 役員の中で申し送り事項があり、毎年ピーポーくんの家の確認をしていた。確認時には、毎年、協力家庭・事業者のところに挨拶に行っていた。もし、そこで継続が難しいとの事情があれば札をはずしていた。また、マップを作成し、当年度のピーポーくんの家の周知をしていた。学校によって違いもあると思う。各学校がどういう管理をしているのか把握はしていない。

【加地委員】

福田委員が東浅川小学校にいた時に自分も PTA としてお手伝いさせていただいていた。その後も東浅川では、PTA 役員はピーポーくんの家の地図を作って挨拶に伺っている。

【関口委員】

私の地区の小学校でもクリーン活動の時などに挨拶している。PTA が主体で活動していると認識している。

【平塚委員】

育成計画を作った時に関係者にヒアリングしたところ、それぞれ学校の PTA で管理されていて、教育委員会で件数の把握はしているが、全市的なスタンダードのようなものはない。抑止力でステッカーを貼っている地域と、実行性があり駆け込み先として貼っているところと地域によって2つのパターンがありという状況である。

【加地委員】

中学校 PTA 連合会では平成 26 年から携帯・スマホに関するワーキンググループを作っている。子どもたちの携帯使用の現状を把握したり、インターネット社会に潜む危険から子どもたちを守る携帯利用に関するルールなどを作成したりしている。27 年度もそうした内容がまとまったら、検討会で情報提供していきたいと思う。

また、9月19日(土)2時～4時にパワーアップ研修会を行います。北野市民センター

大ホールにおいて、NPO 法人青少年メディア研究協会の下田太一氏を招き、「気づいていますか？携帯が変えた子どもたちの生活」を講演していただく。PTA 総会でも下田氏に来ていただき、限られた時間の中で講演をしていただいた。教育委員会の方にも出席いただき、とても良い内容だったと報告を頂いている。お時間がありましたら、こちらの会にご出席いただけたらと思う。

第2回検討会の開催について

事務局より説明

日時 平成27年11月27日（金） 午前10時～12時 市役所8階802会議室